

おとなってこわい？ミーコちゃんのひょうきん



いつも 仲良し（なかよし）の ミーコちゃんと 鳥（とり）さん。

ミーコちゃんが 学校（がっこう）のことを 話す（はなす）と、
鳥さんは 「うんうん」と 聞いて（きいて）くれるの。

「先生（せんせい）、怖い（こわい）んだよ」
「すぐ怒る（おこる）し、黙って（だまって）ると 睨（にら）んで（にらんで）くるの」

でも、鳥さんは ひと言（こと）だけ 言いました。

「その先生、本当は（ほんとうは） 泣いたり（ないたり）してるのよ」

ミーコちゃんは きょとんとしました。

「え？ ああ怖い先生が、泣くの？」

「うん。時々(ときどき)、職員室(しよくいんしつ)の隅っこ(すみっこ)で、

一人(ひとり)で 悩んだり(なやんだり)、
泣いたりしてるのを 見た(みた) ことがあるわ」



「本当は 優しい(やさしい) 心を持って(もって)るのよ」

「大人(おとな) って、見た目(みため) じゃ 分からない(わからない) の」

次の日(つぎのひ)、ミーコちゃんは 少し(すこし) だけ 先生を
違った(ちがった) 目で 見て(みて) みました。

すると、少し うつむいていたり、

ノートを 黙って(だまって) 直して(なおして) くれたり――

ある日、ミーコちゃんは 見てしまいました。

鳥さんと 先生が、そっと 話しをしているのを。

「今日も(きょうも)、頑張って(がんばって) たね」

鳥さんが 先生に 言いました。

先生は 小さな（ちいさな）声（こえ）で 答え（こたえ）しました。
「ありがと……でも、自分に 自信（じしん）が無くなることもあるんだ」

鳥さんは 笑って（わらって） 答えました。
「それでいいの。誰（だれ）でも 迷った（まよった）り、悲しく（かなしく）
なったりするの」



その時（とき）、ミーコちゃんは わかりました。
「鳥さんって、先生の 友達（ともだち）なんだ——」
それからというものの、ミーコちゃんと 先生は、
少し（すこし）ずつ 仲良く（なかよく）なっていました。

ある日 ミーコちゃんは お母さんに言いました。
「ねえ、鳥さん、最近(さいきん) 見かけないね……」



お母さんが そっと こたえました。
「そうね……鳥の命(いのち)は 短い(みじかい) こともあるから、
お空(そら)に 旅立った(たびだつた)のかもしれないね」

その夜（よる）、ミーコちゃんは、
窓際（まどぎわ）で 便せん（びんせん）に 向かい（むかい）しました。



「鳥さんへ」

そう 書き始める（かきはじめる）と、
言葉（ことば）が、ぼろぼろと こぼれおちました。

「わたし、怖い先生だって 思ってた（おもってた）いたの。」
「でも、鳥さんのおかげで、本当の 先生を 知る（しる）ことができた
よ。」

「人って、見た目（みため）だけじゃ わからないね。
先生は、やさしい 心を もってたんだね。」

「教えて（おしえて）くれて、ありがとう。」

手紙（てがみ）を 書き終える（かきおえる）と、
ミーコちゃんは、それを そっと 折って（おって）、紙飛行機（かみひこう
き）にしました。



次の日、学校の 屋上（おくじょう）。
風（かぜ）の 匂い（におい）を 胸（むね）いっぱい に すいこんで――
ミーコちゃんは、紙飛行機を 飛ばし（とばし）ました。



空（そら）へ、高く（たかく）、高く、
鳥（とり）さんが 居た（いた）、あの 空へ――

https://youtu.be/SIXL1A7rrxo?si=mfBkUmGU_X4mWZp

原案・脚本：館野和洋

絵：ChatGPT+DALL.E (OpenAI)